

「こんちはあ、篩借してくんなしよ」

「へえ、おら家の篩今ちようどどごさしまったがねえぐなつちまつて困つちまつた。どごさいつただべ、まあほんに、どこにあんべどごにあんべど探しただけんじよ、めっかんねぐつてねえだがらあ」

「ま、そうがよ」

「悪りあんべだつたごどお」

なんて。

「いやあ、んじゃしようがねなあ、篩ねえだ困つたなあ」

まあそして、お爺ちや篩借つちえきらんにあぐつて家つあ帰つて来ただど。したら、

「お婆ちや、篩どごも皆ねぐつて困つたな、なじよんすんべなこれ、ふるうにふるわんにえ

なあ。あつ、そうだ、んじゃおれのふんどしでも持つてやつかあ」

つうごどで、今度お爺ちやはいでだふんどしはずして、それで黄粉ふるってだだど。したつ